

実施報告

令和3年度 学校・図書館・ボランティアを結ぶ実践発表会

【日時・会場】

- 令和4年1月18日（火）13：00～16：30 滋賀県立男女共同参画センター
※新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、一部プログラムを変更して実施しました。
- ・「情報交換・意見交流」はグループに分かれて実施とせずに、聴講時の座席から参加者に御発言いただき、全体で情報交換を行う時間としました。
 - ・実践報告の時間を20分間から40分間とし、「二人ブックトーク」を実演いただきました。
 - ・会場からは、近江八幡市教育委員会の子どもの読書に関する取組について、ご報告いただきました。

実践報告

【内容】

「いつでもどこでもだれでも二人ブックトーク」

報告：ブックトーク研究会 ぶっくあい

市島 恵子 氏

小西 眞知子 氏

【報告】

ブックトークを二人で行う「二人ブックトーク」を会場で実演いただいた後、これまでの活動やブックトークのシナリオ作りのポイントなどをお話いただきました。

～ブックトークについて～

ブックトークとは、1つのテーマに沿って、いろいろな本を幅広く紹介する手法のことです。

聞き手の「読んでみたいなあ」という潜在欲求の掘り起こしにつなげます。県教育委員会では、県内図書館の司書の方に御協力いただき、ブックトークの準備や実践の際の注意事項をまとめたガイドブックと動画を作成し、滋賀県情報提供システム「におねっと」で公開しています。ぜひご覧ください。

▶<https://www.nionet.jp/dokusho/booktalk/index.html>

【参加者の感想から（抜粋）】

- ・1つのテーマに沿った本を自然な流れでつないでいかれるのが素晴らしかった。
- ・ブックトークに対するハードルが少し低くなった気がしました。楽しく聞かせて頂いた。
- ・シナリオ作りのポイントや、二人ならではのメリハリのある実演を聞くことができよかった。とてもひきつけられるブックトークで、選書のポイント等のヒントを得ることができた。



講演

【内容】

「子どもの豊かな読書環境をめざして」

講師：笹倉 剛 氏（神戸親和女子大学 教授）

【講演】

読書の意義や子どもと本をつなぐ取組などについて、先生が取り組まれている「ビブリオトーク」をはじめ、参考となる様々な取組を紹介しながらお話しいただきました。参加者も絵本を使った読みきかせの指導と手遊びの実演もしていただきました。

【参加者の感想から（抜粋）】

- ・実践をふまえ、具体的な内容をまなぶことができ、とてもためになった。日々の仕事の中で即活用できるスキルと、今後の活動の参考にしていきたい話をきけてとてもよかった。
- ・「本をすすめる側がまず本を読むべき」という意見と、ビブリオトークの気軽さがとても興味深かった。
- ・学校図書館には人と、お金（図書費）が、本当に大事だと思う。子どもたちが、利用できる本、読みたくなる本が置いている学校図書館にする必要があると、講演を聞いて思った。
- ・読み聞かせのしかたなど、実演を交えて、楽しく教えて頂きました。読書推進は環境づくりによるなどと思った。



事例紹介

予定していたグループに分かれての情報交換・意見交流を実施できませんでしたが、アンケートで参加者の実践や今後取り組んでみたいことをお寄せいただきましたので、ここに紹介させていただきます。

【本の紹介】

- ・読み聞かせ、ブックトーク
- ・ブックトークビデオ作成
- ・おすすめ本の紹介ポスター、子どもが子どもにすすめる本の紹介ポスター。
- ・学校図書館に入った新刊の表紙を一冊ずつ見せたり、簡単なあらすじや、どこの単元で参考になるかなど一言そえて紹介している。大規模校は昼の放送などで行い、小規模校は各クラスに行き紹介している。
- ・学校へ行って読みきかせ、お話会をしている。子どもたちは、よく聞いてくれて、感想文にも本を読みたいといってくれる子が多い。やはりいい本、いいお話を届けることが大切だと実感している。

- ・市内小学校へのお話会出張授業
(素ばなし、プロジェクターでの読み聞かせ、手あそび・詩の紹介、人形劇(主に昔話)、ブックトーク)
- ・自分の感想をそえて、みんなにも聞いてみる。(強制はしません) 一人一人の受けとめ方の違いを確認して楽しむ、人として(子ども達と) 出会う事を大切に読んでいる。

【学校図書館】

- ・移動図書館での学校訪問、団体での本の貸出。
- ・週に一度、読書メーターの冊数(全校で何冊読んだか)の掲示。読書の本を作り、読んだ冊数ごとに読書の実シールを貼り、ごほうびシールを図書カードに貼っている。
- ・季節やイベント、教科学習に関わりのある図書を市立図書館や図書室から集め、廊下の学年本棚に並べる。
- ・読書貯金箱として、読んだ本のページ数・冊数を記録する。
- ・高学年(小学生)ではビブリオ・バトルも盛り上がっていた。
- ・本の背表紙の破損などは頻繁に修理し、いつもきれいな状態にしておく。(生徒たちは破れた古い本を絶対手にとらないため)
- ・「きせつの本」のコーナーを設けて紹介している。

【図書委員活動】

- ・図書委員会の児童が中心となり、図書ビンゴや図書クイズなどを企画し、まず図書室に足を運んでもらおうとしている。
- ・図書委員や図書クラブとの交流会、POP交換。

【朝の時間】

- ・朝の読み聞かせ
- ・朝読キャンペーン(学期の中頃に一度。例:10月末~11月 全国読書週間にあわせて)